

治安情報 2010 年 第 2 四半期報告書

対象地域	フランス リヨン (及びローヌアルプ州)	在リヨン出張駐在官事務所 リヨン日本人会治安情報収集チーム	
		作成日	対象期間
調査方法 新聞 サイト	Le Progrès	2010 年 6 月 30 日	2010 年 4 月～6 月
集計情報の流布	未	在留邦人対象に各団体及び在リヨン出張駐在官事務所ルート	
調査項目:			

報告要旨

I. 特集:インターネット犯罪

- 麻薬取引を上回るネット不正取引・詐欺行為
- インターネットユーザーは依然として警戒心が弱い
- インターネット犯罪の被害に遭わないためには？
- フィッシングとは？

II. ローヌ県でエキノコックス症の卵確認

- 予防方法

I. インターネット犯罪

ネット犯罪の急増を前にして、早急に対応策を講じ、そのために大掛かりな手段を用いることが要求されます。フランスでは、ネット犯罪関連の特別捜査官 450 人を動員し、これらの犯罪により効果的に対応することを目指しています。

麻薬取引を上回るネット不正取引・詐欺行為

2 日間にわたって開かれたインターネット犯罪国際フォーラムで、世界各国から、警察官、国家憲兵、大学教員、中小企業社員など 1500 人の専門家が集まり、それぞれの経験・体験を分かち合いました。ネット犯罪は市民一人一人にかかわる減少です。ネット犯罪行為による収入は現在、麻薬密売取引による収入を上回っています。こうした統計データは確認が困難ですが、行政当局がこの現象の危険性を真剣に受け止めていることは明らです。さらに、多様な形態・様相を持ち絶えず変化するネット犯罪の特質が対策、防止をきわめて困難にしています。サイバー犯罪は、個人情報窃盗、銀行関連の詐欺メール、ハッキングなど様々。また、児童ポルノ犯罪も忘れてはなりません。フランスでは、昨年夏から、ネットパトロール強化のため、ネット犯罪専門の国家憲兵及び警察官 450 人を動員しています。

インターネットユーザーは依然として警戒心が弱い

情報・通信科学博士ジャン＝ポール・パント氏への質問：

- ・ サイバー犯罪が急増していますが、これは避けられない現象ですか？

はい、サイバースペースはますます拡大し、これを不正利用しようとする人がいる限り避けられません。増加傾向にあるネット犯罪はフィッシング詐欺だけではなく、インターネットは、ネットユーザーにさまざまな可能性を提供しました。そのために個人の名誉が侵害されることもあります。

- ・ 「ユーザーに警戒心が欠けていますか？

はい。特にソーシャルネットワークに登録している場合など、インターネットを利用中に個人情報を解読される可能性があるという意識が薄い。また、ファイルのダウンロードや転送についても無用心です。安全なサイトや信用できるサイトを使用していてもです。使用コンピュータに侵入されて、知らずに児童ポルノの画像をダウンロードしてしまい有罪となった人の例もあります。

- ・ 利用にあたって注意すべきことは？

まず、絶対にメールで個人情報を教えないこと。それから、受信メールに含まれている添付ファイルに注意すること。送信者があなたのコンピュータに含まれる個人情報を利用できるようなファイルの可能性があります。「不明の送信者」からのメールや「興味を引く件名」も要注意です。企業の場合、ミニブログにも注意してください。競合社が、一見取るに足らないようで実は事業内容を明らかにするような情報を入手できるからです。

- ・ フィッシングに対する警戒心からオンライン購入が発達しないという可能性はありますか？

その可能性はあります。しかし、絶対にオンライン購入しないという人が、平気で銀行の口座番号などを明記したファックスを送る場合もありますから。

インターネット犯罪の被害に遭わないためには？

- 身元を明かさない

児童・生徒のブログは誰でも読めるダイアリーのようなもの。「ナンバープレートがはっきり見える自家用車の前」や「自宅の前」などで子供たちが写った写真など、他人が身元を識別できるような写真は掲載しないこと。もちろん、自分の住所や電話番号なども公開を避けること。

- 自分の生活のすべてを明かさない

一見何でもないような内容が、犯罪者にとって貴重な情報源となる可能性があります。Facebookなどで、「今朝、私たちは休暇で15日間のスペイン旅行に出かけます」というようなメッセージを掲載する人がいます。これはネットを探索する空き巣にとっては「思わぬ幸運」。ソーシャルネットワークでは個人アカウントへのアクセスを友人のみに制限しましょう。

- 見知らぬ人とのチャットに用心

児童性犯罪者にとって、インターネットは児童ポルノの画像やビデオの検索だけでなく、獲物を狙う場所でもあります。チャットルームやディスカッション掲示板などで、ニックネームの後ろに隠れて「友達」を装った犯罪者が子供と接触する可能性があります。子供たちはソーシャルネットワークでできるだけ多くの友達を持つとすると、見知らぬ人との接触を容易に受け入れてしまう結果となります。

- 「お買い得すぎる」商品に注意

インターネット上での不正なお買い得情報による詐欺や偽造品販売が増加しています。オンライン購入の際に、あまりにも安い値段や魅力的な商品に注意し、また海外への高額な送金は避けること。「高級車をお買い得価格で。ただし現金払いでルーマニアでお引渡し」といった内容には注意。紙切れをドル紙幣に変えるという魔法のローションを買うのにアフリカに20万ユーロを送金した被害者もいます。

- 危険なサイトは閲覧しない

不正なサイト、特にアダルトサイトやオンラインゲームサイトには、「トロイの木馬」のように、コンピュータに含まれる個人データや暗証番号など重要な情報を収集するインターネットウイルスが潜んでいます。利用率の高いサイトは注意が必要。また、アンチウイルスソフトの使用も推奨されます。

- 同じパスワードの使用を避け、定期的に変更

すべてのインターネットサイトに同じパスワードを使用するのは避けましょう。また、できるだけ複雑なパスワードを選び、定期的に変更することも重要です。ナビゲーションソフトにはパスワードを記憶するオプションがありますが、記憶させないほうが賢明です。

- 提訴する

学校でインターネット関連の危険や犯罪について話し合ったことのある12歳の少女が、チャットルームでウェブカムを通じて露出狂に接触し、そのことを父親に話しました。父親は憲兵隊に通報し、露出狂の男性の身元が判明して提訴が可能となりました。

フィッシングとは？

あなたの銀行、インターネットプロバイダーなどから、あなたのユーザー名やパスワードの確認、あるいは銀行口座番号の更新などを要求するようなメールを受け取ったら要注意。フィッシングと呼ばれるネット詐欺の可能性があります。これらの要求に応じると、関連機関の公式サイトではなく詐欺犯罪のサーバーにアクセスしてしまいます。そしてそこに入力した個人情報はずべて悪用される危険があるのでご注意ください。

(以上プロブレ紙、2010年5月14日付)

II. ローヌ県でエキノコックスの卵確認

ローヌ県でエキノコックス症(échinococcose alvéolaire)の原因となる寄生虫エキノコックスの卵が確認されている。感染源は主に、エキノコックスの幼虫が寄生した野ネズミなどを食べるキツネ。犬や猫の場合もある。親虫はキツネの体内に寄生して卵を産み、これらの卵がキツネの糞とともに体外に排出される。ヒトへの感染は、体内に寄生虫のいる動物に触ったり、地面すれすれの高さに生えている野イチゴやブルーベリーなどを摘んで食べることで卵が体内に入って起こる。卵はヒトの体内で幼虫になり、肝臓に寄生して増殖し、致命的な肝機能障害を引き起こす。ヒトの場合潜伏期は長く、無症状で10年経過することもある。フランスでは、発病ケースの88%が薬物療法による治療で、あるいは摘出手術により治癒できる。ただし、エキノコックス症は重病とはいってもまれで、人から人への感染はない。

予防方法

- 手を洗う

動物や生ゴミ、動物の糞などに触れたら手を洗うこと。また、食事の前の手洗いも忘れずに。家のペット(犬や猫)に顔や手をなめられないようにすること。また、お皿やナイフ、フォークをなめさせないこと。最低1年に2回ペットに駆虫薬投与すること。ペットをシャンプーする場合はゴム手袋をはめること。ガーデニングなど、土に触った後は手を洗うこと。

- 食品衛生上の簡単なルールを守る

ローヌ県など、リスクのある地域で野生の実や草花を生で食べないこと。水洗いして60度以上まで熱すること。卵は強い抵抗性を持っていて、マイナス10度や20度ぐらいの低温でも、お酢や漂白剤でも死にません。

- 野菜や果物を洗う

キツネが多く繁殖しているわけではないので危険は少ないものの、庭や畑で採れた野菜、果物は必ず水で洗うこと。

(以上プロブレ紙、6月13日付)